

## 柏の景気情報（平成19年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成19年7月分）

○ 調査期間 : 平成19年7月19日 ~ 7月24日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	70	70.7%
建設	17	13	76.5%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	39	26	66.7%
サービス	20	13	65.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成19年7月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは3カ月連続でマイナス幅が拡大、約3年半振りの低水準 ▶

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.1(前月水準▲21.7)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業▲5.5(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.4(同▲21.4)、サービス業▲30.7(同▲25.0)、卸小売業▲34.6(同▲32.0)である。

【建設業】では、「官・民とも大型物件が大手・中堅ゼネコンが受注してしまい、対応が業界でも単独でもできない」(土木建築工事)、「特に大きな期待のもてる要素がない」(土木建築工事)といった厳しい声の他、「原油高騰により材料価格等が値上がりしてきている」(土工工事)、「材料、特にシンナー類が上昇」(塗装工事)といった仕入上昇に関する声が寄せられた。また、「お盆前後に集中する工事が多く、調整が厳しい状況」(板金工事)といった声も寄せられている。

【製造業】では、「梅雨入り後の好天を受け、業界では前年比106%と好調であった」(清涼飲料製造)といった明るい声も寄せられているが、「ユーザーの在庫調整等で当初の予想より売上は減少の見込み、カイロは不調のまま推移」(鉄粉製造)といった声の他、「原油価格が再び高騰し、原材料価格の値上げ圧力が高まっている」(工業用ゴム製品製造)との声や、「9月より材料(段ボールシート)の値上げのアナウンスあり」(紙製容器製造)、「一部の機械で輸入部品を使用しているが、円安に振れており、輸入機器価格が上昇傾向にある」(包装・組立機械製造)といった仕入上昇に関する声が寄せられた。また、「機械の安全性や操作・機能における顧客の品質要求レベルが高くなってきており、それに合わせて品質管理部署の充実や、ISO9001品質システムの見直しを行っている」(包装・組立機械製造)とのコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「食品、住居は昨比維持の状況」(総合スーパー)との声もあるが、「夏物衣料の見切りの時期となったが、前年数字を取れていない。相次ぐ大型店進出の影響かもしれない」(各種商品小売)、「同業他社の攻勢にあい、売上は下降、仕入は上昇。本業だけでは厳しい時代に突入している」(燃料小売)との競争激化の声や、「SUPER6DAYSの買い控えから、初旬より入店客数・売上共に低調、期間中もストック場所が用意できず、前年を下回る結果となった」(各種商品小売)といった買い控え等を指摘する声が寄せられている。特に、「台風、長雨などの影響により、衣料品の売行きが悪い。梅雨明けと高温が望まれる」(総合スーパー)、「野菜は、曇天や低温などにより、入荷のバラつきがあり、単価が高め傾向。果実は地域により冷害もあり、作況にも影響があるが、今後の高温においては期待される品質で回復するものと思う。これからは各地で夏祭りが多く、高温好天次第では消費拡大が望める」(青果卸売)、「梅雨とも夏ともいえない天候でプール用品が停滞」(学生衣料)といった天候の影響に関する声が多く寄せられた。また、「駅前の商業施設は、TXの開業以来、柏駅の乗降客数の減、周辺へのSCの出店で、入店客数の前年割れが続いているが、『ハンズ』の開店で限界性の回復に期待」(百貨店)、「ステーションモールに東急ハンズオープン。その奥にある当店も売上増加が望める」(書籍小売)といった東急ハンズ開店に期待する声も寄せられている。その他、「極端な落ち込みはないが低調である。世の中の暗いニュース、中国疑惑などが微妙に食生活にまで影響を与えている」(食料卸売)といったコメントも寄せられている。

【サービス業】では「当店は主婦のお客様が多いため、夏休みに入ると客足が減ってしまいます」(レストラン)といった夏休みに関する声の他、「宴会・会議・展示会ともに苦戦。宿泊は団体減少」(ホテル)といった厳しい声が寄せられている。

○仕入上昇

「一部の機械で輸入部品を使用しているが、円安に振れており、輸入機器価格が上昇傾向にある」(包装・組立機械製造)、「ユーロ高で欧州関係の材料が値上がり続く」(菓子小売)といった円安の影響に関する声や、「原油高騰により材料価格等が値上がりしてきている」(工業用ゴム製品製造)、「材料、特にシンナー類が上昇気味」(塗装工事)、「9月より材料(段ボールシート)の値上げのアナウンスあり」(紙製容器製造)といった材料の値上げに関する声が各業種から寄せられている。

○天候の影響

「梅雨入り後の好天を受け、業界では前年比106%と好調であった」(清涼飲料製造)との明るい声が寄せられているものの、「台風、長雨などの影響により、衣料品の売行きが悪い。梅雨明けと高温が望まれる」(総合スーパー)、「梅雨とも夏ともいえない天候でプール用品が停滞」(学生衣料)、「台風等の天候不順の影響から前年を下回る推移となっている」(各種商品小売)といった台風・梅雨の影響に関する声が寄せられている。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲25.7	▲20.0	▲22.2	▲38.4	▲9.0
3月	▲22.8	▲38.4	▲5.8	▲37.9	△9.0
4月	▲15.7	▲6.2	▲5.8	▲33.3	±0.0
5月	▲19.4	▲26.6	±0.0	▲32.1	▲9.0
6月	▲21.7	▲21.4	▲5.5	▲32.0	▲25.0
7月	▲27.1	▲38.4	▲5.5	▲34.6	▲30.7
見通し	▲21.4	▲30.7	±0.0	▲30.7	▲23.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.4	▲ 5.7	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 40.0	▲ 31.4	△ 15.7	△ 15.7
建設	▲ 38.4	▲ 38.4	▲ 38.4	▲ 38.4	▲ 53.8	▲ 38.4	△ 15.3	△ 15.3
製造	△ 11.1	△ 22.2	±0.0	▲ 11.1	▲ 50.0	▲ 38.8	△ 11.1	△ 16.6
卸・小売	▲ 38.4	▲ 11.5	▲ 30.7	▲ 3.8	▲ 34.6	▲ 34.6	△ 15.3	△ 7.6
サービス	▲ 15.3	±0.0	▲ 15.3	▲ 15.3	▲ 23.0	▲ 7.6	△ 23.0	△ 30.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.1	▲ 21.4	▲ 5.7	▲ 8.5
建設	▲ 38.4	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 15.3
製造	▲ 5.5	±0.0	△ 11.1	△ 11.1
卸・小売	▲ 34.6	▲ 30.7	▲ 7.6	▲ 15.3
サービス	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 7.6	▲ 15.3

【平成19年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.1(前月水準▲21.7)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大した。

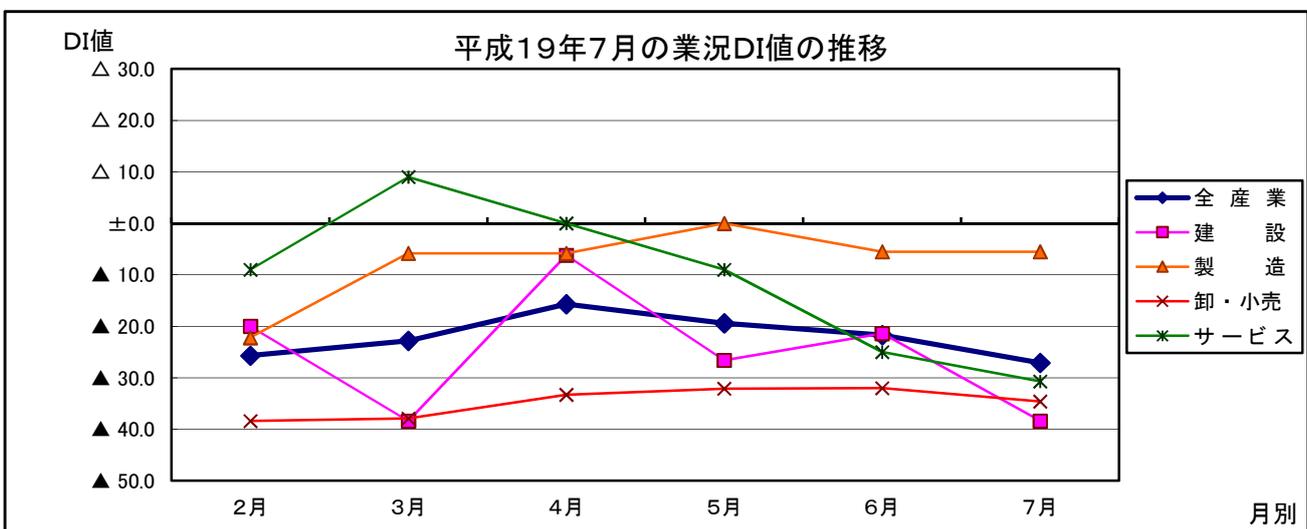
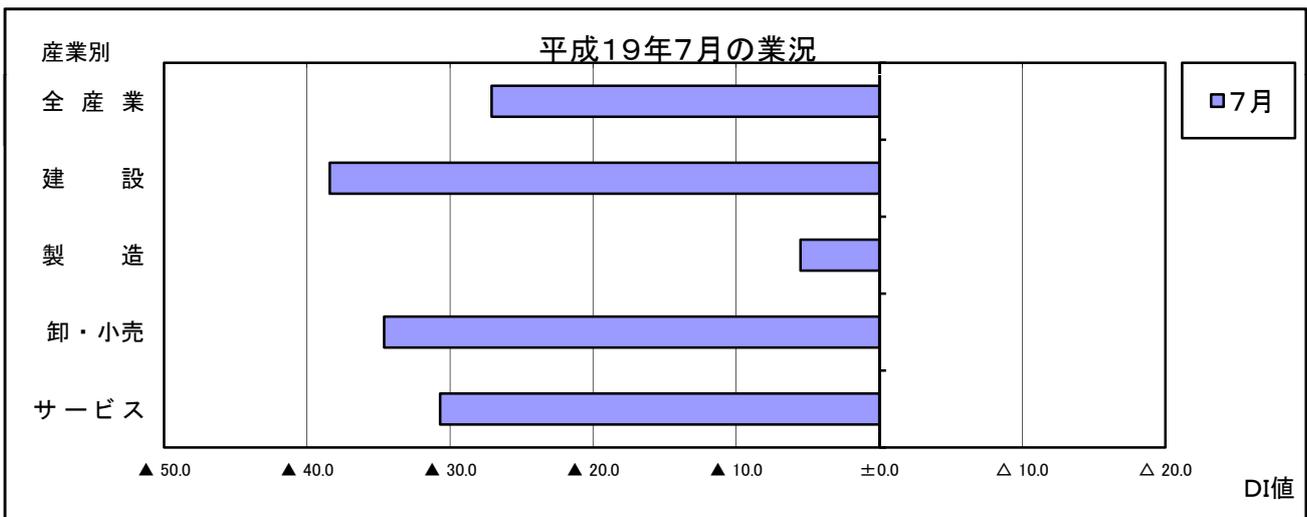
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業▲5.5(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.4(同▲21.4)、サービス業▲30.7(同▲25.0)、卸小売業▲34.6(同▲32.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.4(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が▲4.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲23.0(同▲33.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲30.7(同▲21.4)、卸小売業▲30.7(同▲24.0)である。

平成19年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲25.7	▲22.8	▲15.7	▲19.4	▲21.7	▲27.1	▲21.4(▲17.3)
建設	▲20.0	▲38.4	▲6.2	▲26.6	▲21.4	▲38.4	▲30.7(▲21.4)
製造	▲22.2	▲5.8	▲5.8	±0.0	▲5.5	▲5.5	±0.0(△5.5)
卸・小売	▲38.4	▲37.9	▲33.3	▲32.1	▲32.0	▲34.6	▲30.7(▲24.0)
サービス	▲9.0	△9.0	±0.0	▲9.0	▲25.0	▲30.7	▲23.0(▲33.3)



【平成19年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲8.6)となり、マイナス幅が▲12.8ポイント拡大した。

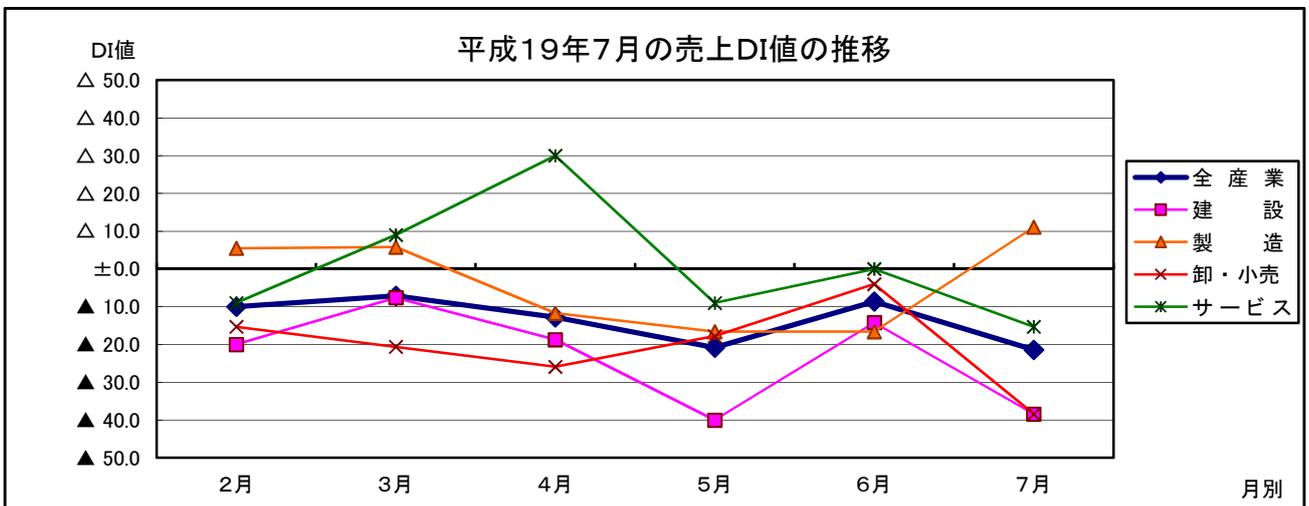
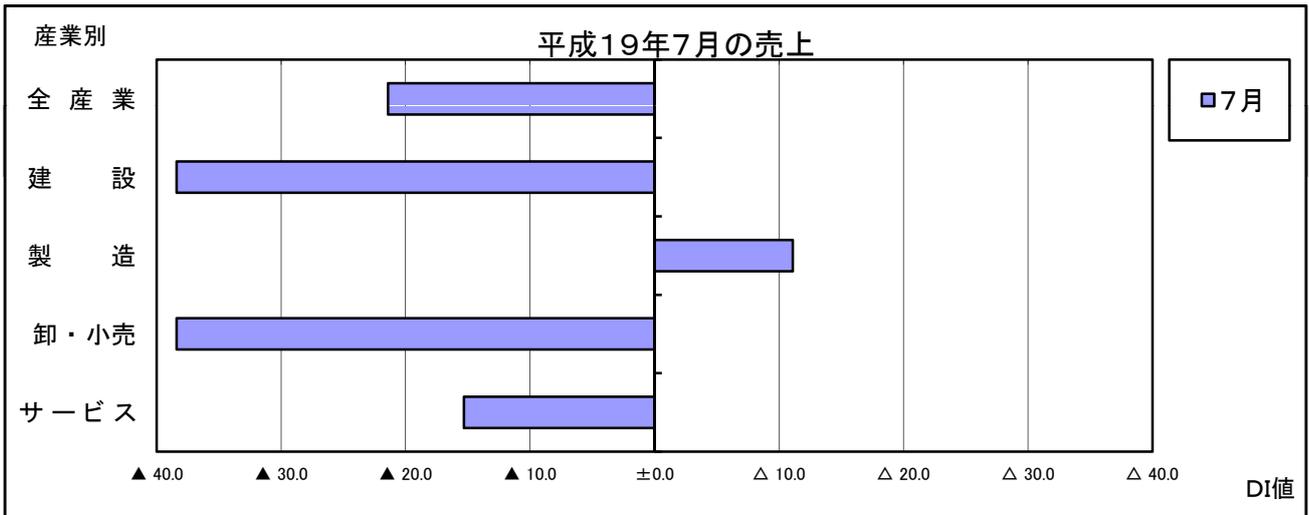
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△11.1(同▲16.6)であり、プラス幅が△27.7ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.4(同▲4.0)、建設業▲38.4(同▲14.2)、サービス業▲15.3(同±0.0)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲34.4ポイント、建設業はマイナス幅が▲24.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準△1.4)となり、マイナス幅が▲7.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△22.2(同△33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.4(同▲21.4)、卸小売業▲11.5(同▲8.0)である。

平成19年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲10.0	▲7.1	▲12.8	▲20.8	▲8.6	▲21.4	▲5.7(△1.4)
建設	▲20.0	▲7.6	▲18.7	▲40.0	▲14.2	▲38.4	▲38.4(▲21.4)
製造	△5.5	△5.8	▲11.7	▲16.6	▲16.6	△11.1	△22.2(△33.3)
卸・小売	▲15.3	▲20.6	▲25.9	▲17.8	▲4.0	▲38.4	▲11.5(▲8.0)
サービス	▲9.0	△9.0	△30.0	▲9.0	±0.0	▲15.3	±0.0(±0.0)



【平成19年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲23.1)となり、マイナス幅が△1.7ポイント縮小した。

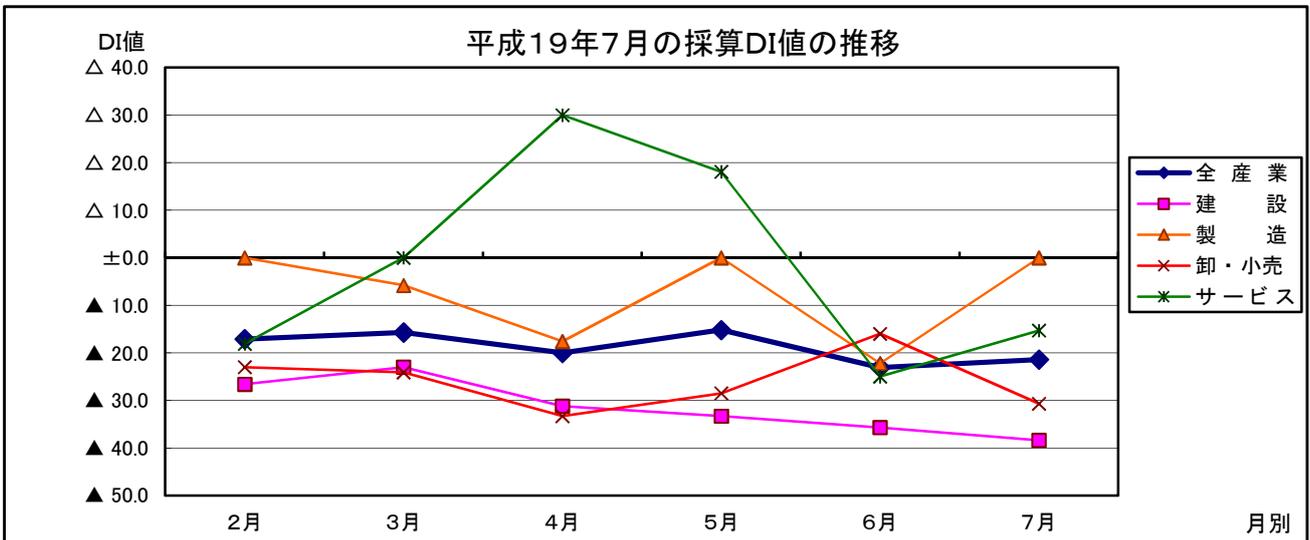
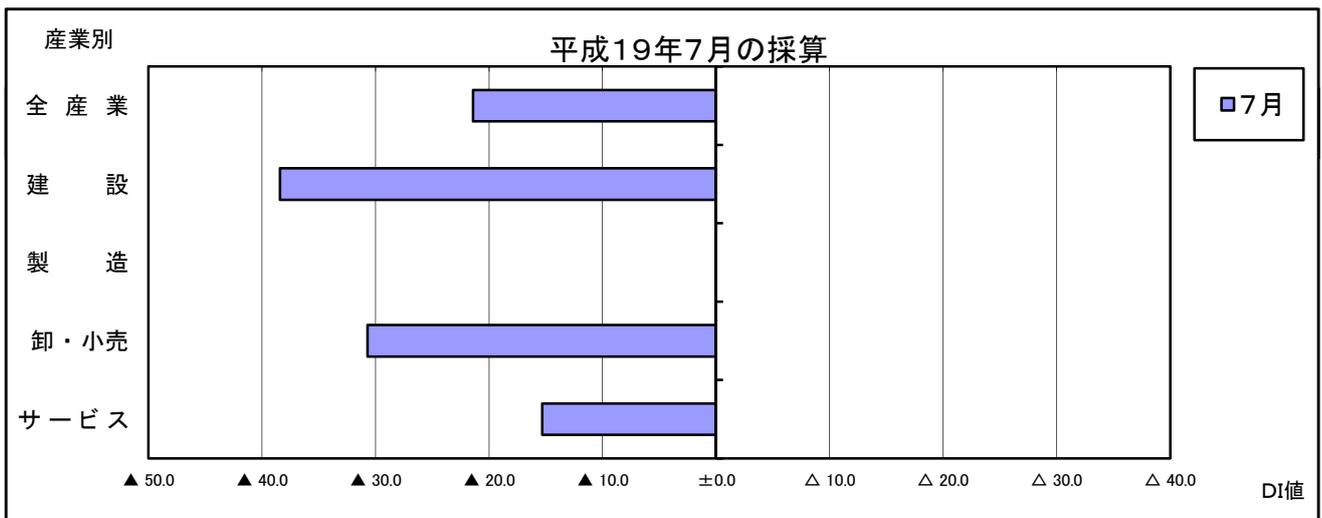
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲22.2)、サービス業▲15.3(同▲25.0)であり、特に、製造業はマイナス幅が△22.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.7(同▲16.0)、建設業▲38.4(同▲35.7)ある。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲25.0)、建設業▲38.4(同▲42.8)、卸小売業▲3.8(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲11.1(同△22.2)であり、▲33.3ポイントと大幅に悪化する見通しである。

平成19年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 17.1	▲ 15.7	▲ 20.0	▲ 15.2	▲ 23.1	▲ 21.4	▲ 14.2 ( ▲ 7.2 )
建設	▲ 26.6	▲ 23.0	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 35.7	▲ 38.4	▲ 38.4 ( ▲ 42.8 )
製造	±0.0	▲ 5.8	▲ 17.6	±0.0	▲ 22.2	±0.0	▲ 11.1 ( △ 22.2 )
卸・小売	▲ 23.0	▲ 24.1	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 16.0	▲ 30.7	▲ 3.8 ( ±0.0 )
サービス	▲ 18.1	±0.0	△ 30.0	△ 18.1	▲ 25.0	▲ 15.3	▲ 15.3 ( ▲ 25.0 )



【平成19年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲42.0)となり、マイナス幅が△2.0ポイント縮小した。

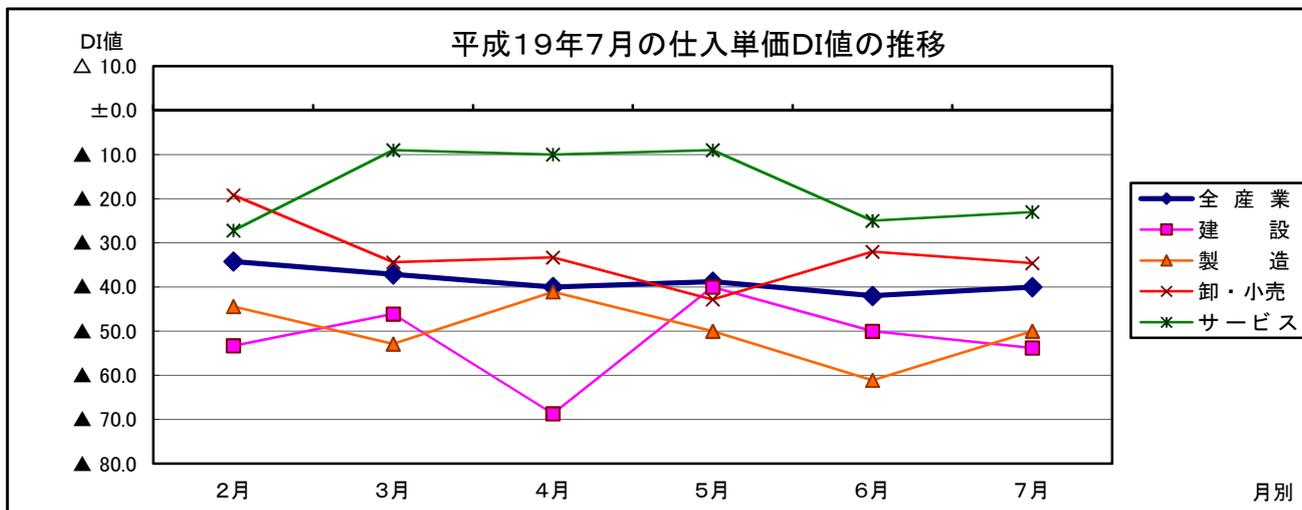
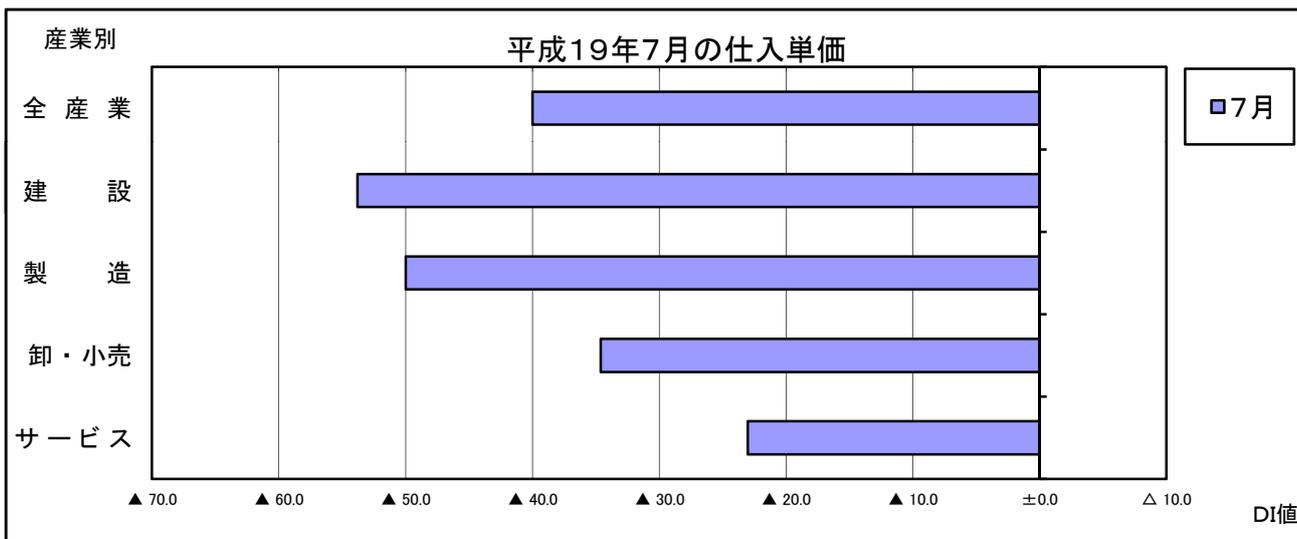
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲61.1)、サービス業▲23.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲53.8(同▲50.0)、卸小売業▲34.6(同▲32.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.4(前月水準▲27.5)となり、マイナス幅が▲3.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲7.6(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.6(同▲20.0)、製造業▲38.8(同▲33.3)、建設業▲38.4(同▲35.7)である。

平成19年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲34.2	▲37.1	▲40.0	▲38.8	▲42.0	▲40.0	▲31.4(▲27.5)
建設	▲53.3	▲46.1	▲68.7	▲40.0	▲50.0	▲53.8	▲38.4(▲35.7)
製造	▲44.4	▲52.9	▲41.1	▲50.0	▲61.1	▲50.0	▲38.8(▲33.3)
卸・小売	▲19.2	▲34.4	▲33.3	▲42.8	▲32.0	▲34.6	▲34.6(▲20.0)
サービス	▲27.2	▲9.0	▲10.0	▲9.0	▲25.0	▲23.0	▲7.6(▲25.0)



【平成19年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.7(前月水準△13.0)となり、プラス幅が△2.7ポイント拡大した。

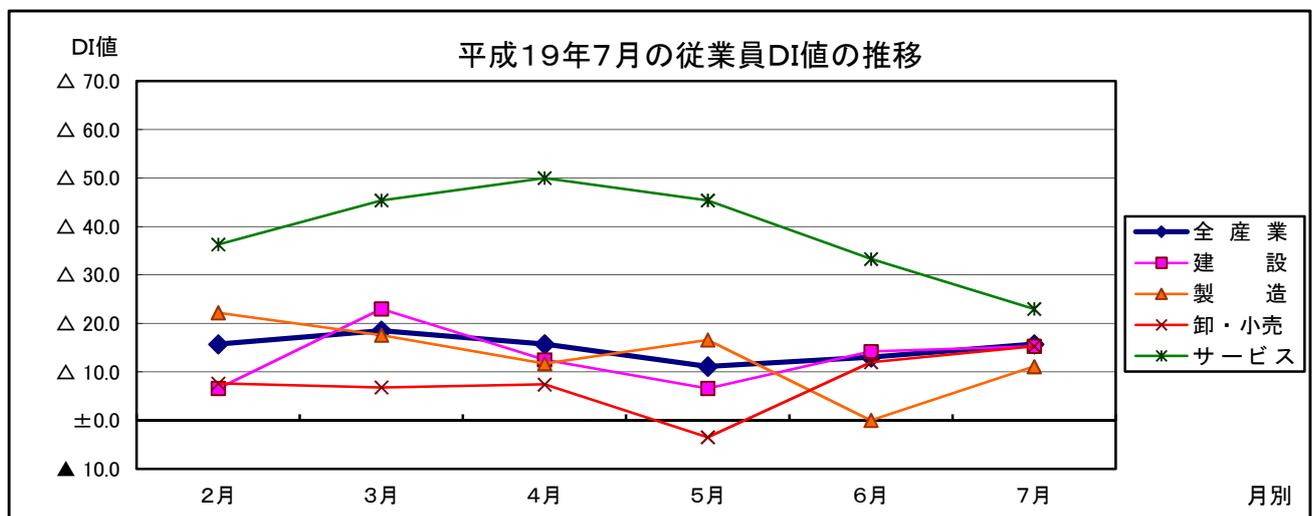
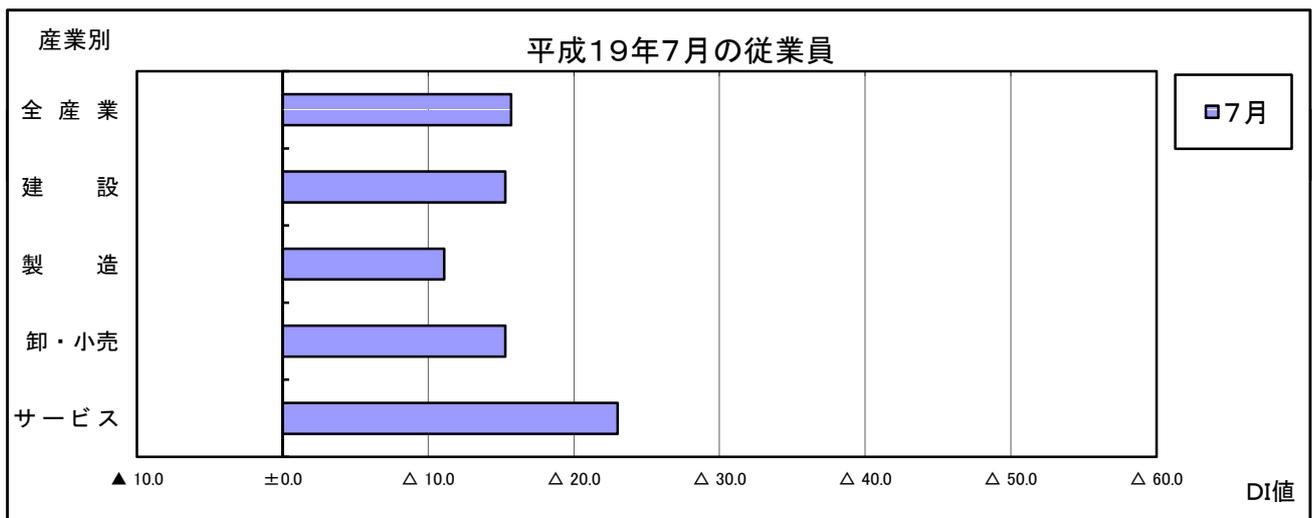
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△11.1(同±0.0)、卸小売業△15.3(同△12.0)、建設業△15.3(同△14.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△23.0(同△33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△15.7(前月水準△17.3)となり、プラス幅が▲1.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△16.6(同△11.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△15.3(同△21.4)、卸小売業△7.6(同△12.0)、サービス業△30.7(同△33.3)である。

平成19年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△ 15.7	△ 18.5	△ 15.7	△ 11.1	△ 13.0	△ 15.7	△ 15.7 ( △ 17.3 )
建設	△ 6.6	△ 23.0	△ 12.5	△ 6.6	△ 14.2	△ 15.3	△ 15.3 ( △ 21.4 )
製造	△ 22.2	△ 17.6	△ 11.7	△ 16.6	±0.0	△ 11.1	△ 16.6 ( △ 11.1 )
卸・小売	△ 7.6	△ 6.8	△ 7.4	▲ 3.5	△ 12.0	△ 15.3	△ 7.6 ( △ 12.0 )
サービス	△ 36.3	△ 45.4	△ 50.0	△ 45.4	△ 33.3	△ 23.0	△ 30.7 ( △ 33.3 )



【平成19年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.7(前月水準▲5.7)となった。

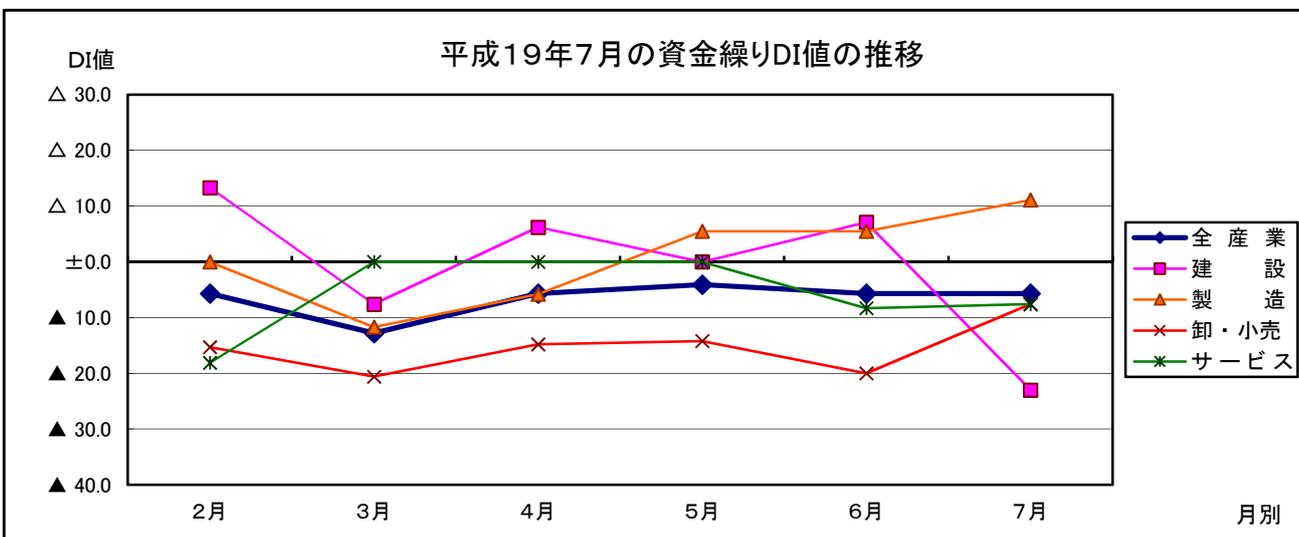
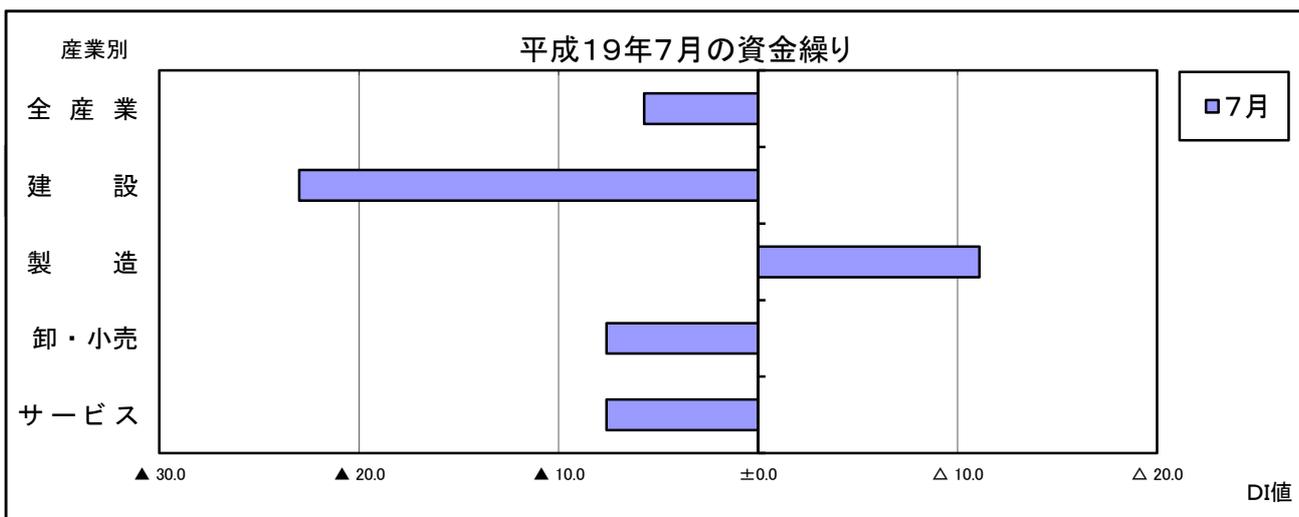
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△11.1(同△5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲7.6(同▲20.0)、サービス業▲7.6(同▲8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲23.0(同△7.1)であり、▲30.1ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△11.1(同△5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲15.3(同▲16.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲7.1)、サービス業▲15.3(同▲8.3)である。

平成19年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 5.7	▲ 12.8	▲ 5.7	▲ 4.1	▲ 5.7	▲ 5.7	▲ 8.5 ( ▲ 7.2 )
建設	△ 13.3	▲ 7.6	△ 6.2	±0.0	△ 7.1	▲ 23.0	▲ 15.3 ( ▲ 7.1 )
製造	±0.0	▲ 11.7	▲ 5.8	△ 5.5	△ 5.5	△ 11.1	△ 11.1 ( △ 5.5 )
卸・小売	▲ 15.3	▲ 20.6	▲ 14.8	▲ 14.2	▲ 20.0	▲ 7.6	▲ 15.3 ( ▲ 16.0 )
サービス	▲ 18.1	±0.0	±0.0	±0.0	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 15.3 ( ▲ 8.3 )



【平成19年7月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	官・民とも大型物件が大手・中手ゼネコンが受注してしまう。対応が業界でも単独でもできない。	・大手受注集中	一般土木建築工事業
	特に大きな期待のもてる要素はありません。	・厳しい状況	一般土木建築工事業
	原油高騰により材料価格等が値上がりしてきている。	・原油高騰 ・仕入上昇	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	お盆前後に集中する工事が多く調整が厳しい状況です。	・お盆 ・工事集中	板金・金物工事業
	材料、特にシンナー類が上昇気味です。工程の遅れにより予定通りに進まず、回収が1ヶ月ずれる。	・仕入上昇	塗装工事業 管工事業(さく井を除く)
製造	梅雨入り後の好天を受け、業界では前年比106%と好調であった。	・天候の影響 ・飲料業界好調	清涼飲料製造業
	材料(段ボールシート)の値上げ、9月よりのアナウンスあり(注意)	・仕入上昇	紙製容器製造業
	原油価格が再び高騰し、原材料価格の値上げ圧力が高まっている。	・原油高騰	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	ユーザーの在庫調整等で当初の予想より売上は減少の見込み。カイロは不調のまま推移。	・在庫調整 ・売上減少 ・カイロ不調	その他の鉄鋼業
	機械の安全性や操作・機能における顧客の品質要求レベルが高くなってきており、それに合わせて品質管理部署の充実や、ISO9001品質システムの見直しを行っている。一部の機械で輸入部品を使用しているが、円安に振れており、輸入機器価格が上昇傾向にある。	・品質管理 ・ISO見直し ・円安 ・仕入上昇	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	極端な落ち込みはないのですが低調な感じがします。世の中の暗いニュース、腹の立つニュース、中国疑惑etc. . . が微妙に食生活にまで影響を与えています。	・停滞感 ・時事問題 ・食生活の影響	食料・飲料卸売業
	8月3日柏ステーションモール内に「東急ハンズ」が開店します。柏駅前の商業施設は、つくばエクスプレスの開業以来、東武柏駅の乗降客数の減、周辺へのSCの出店で、入店客数の前年割れが続いていますが、「ハンズ」の開店で限界性の回復を期待しているところです。	・東急ハンズ開店 ・柏駅乗降客数減少 ・客数減少	百貨店
	台風、長雨などの影響により、衣料品の売行きが悪い。梅雨明けと高温が望まれる。食品、住居は昨比維持の状況。	・天候の影響 ・衣料品不調	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	野菜の状況は、昨今の曇天や低温などにより、品物に入荷のバラつきがあり、単価が高め傾向であります。果実は地域により冷害もあり、作況に影響もあります。主力のスイカや桃も今後の高温においては期待される品質で回復するものと思います。これからは各地の夏祭りが多く、高温好天では消費拡大が望めますので努力していきます。	・天候の影響 ・野菜単価高 ・果実品質	食料・飲料卸売業
	ユーロ高で欧州関係の材料が値上がり続く。	・ユーロ高 ・仕入上昇	菓子・パン小売業
	梅雨とも夏ともいえない天候でプール用品が停滞。	・天候の影響 ・夏物商品	その他の飲食料品小売業
	原油高騰のため	・原油高騰	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)

【平成19年7月の業種別業界内トピックス】

	<p>同業他社の攻勢にあい、売上は下降、仕入は上昇。本業だけでは厳しい時代に突入している。ガス業界では水事業で増販している会社もある。果たして同様に成功するのか、少し考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争激化</li> <li>・売上減少</li> <li>・仕入上昇</li> </ul>	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>8月3日にステーションモール8Fに東急ハンズオープン。その奥にあるステモ店(ウイングB.C)も売上増加が望める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東急ハンズ開店</li> </ul>	書籍・文房具小売業
	<p>夏物衣料の見切りの時期となったが、前年数字を取れていない。相次ぐ大型店の進出が影響しているのかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏物商戦</li> <li>・衣料品不調</li> </ul>	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>7月度は4日から始まるSUPER6DAYSの買い控えから、初旬より入店客数・売上共に低調な推移となった。 SUPER6DAYSもストック場所が用意できず、物量が確保できなかったことから前年を下回る結果となった。 以降も台風等の天候不順の影響から前年を下回る推移となっている。 後半7/25から「オイシイウィーク」というイベントを開催し、飲食を中心に集客をはかり売上に繋げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏物商戦</li> <li>・売上減少</li> <li>・客数減少</li> <li>・天候の影響</li> </ul>	各種商品小売業
サービス	<p>当店は主婦のお客様が多いため、夏休みに入ると客足が減ってしまいます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み</li> <li>・客数減少</li> </ul>	食堂・レストラン
	<p>宴会…宴会・会議・展示会ともに苦戦 宿泊…団体減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宴会苦戦</li> <li>・宿泊団体減少</li> </ul>	ホテル

## 【平成19年7月の多い景気キーワード】

### ◎仕入上昇

- ・ 原油高騰により材料価格等が値上がりしてきている。 (建設業)
- ・ 材料、特にシンナー類が上昇気味です。 (建設業)
- ・ 材料(段ボールシート)の値上げ、9月よりのアナウンスあり(注意) (製造業)
- ・ 機械の安全性や操作・機能における顧客の品質要求レベルが高くなってきており、それに合わせて品質管理部署の充実や、ISO9001品質システムの見直しを行っている。  
一部の機械で輸入部品を使用しているが、円安に振れており、輸入機器価格が上昇傾向にある。 (製造業)
- ・ ユーロ高で欧州関係の材料が値上がり続く。 (卸小売業)
- ・ 同業他社の攻勢にあい、売上は下降、仕入は上昇。本業だけでは厳しい時代に突入している。ガス業界では水事業で増販している会社もある。果たして同様に成功するのか、少し考えている。 (卸小売業)

### ◎天候の影響

- ・ 梅雨入り後の好天を受け、業界では前年比106%と好調であった。 (製造業)
- ・ 台風、長雨などの影響により、衣料品の売行きが悪い。梅雨明けと高温が望まれる。食品、住居は昨比維持の状況。 (卸小売業)
- ・ 野菜の状況は、昨今の曇天や低温などにより、品物に入荷のバラつきがあり、単価が高め傾向であります。果実は地域により冷害もあり、作況に影響 (卸小売業)
- ・ 梅雨とも夏ともいえない天候でプール用品が停滞。 (卸小売業)
- ・ 7月度は4日から始まるSUPER6DAYSの買い控えから、初旬より来店客数・売上共に低調な推移となった。  
SUPER6DAYSもストック場所が用意できず、物量が確保できなかったことから前年を下回る結果となった。  
以降も台風等の天候不順の影響から前年を下回る推移となっている。  
後半7/25から「オイシイウィーク」というイベントを開催し、飲食を中心に集客をはかり売上に繋げていく。 (卸小売業)

## 平成19年7月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.1に対し、「CCI-LOBO」が▲32.8で、マイナス幅が5.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.4に対し、「CCI-LOBO」が▲28.2で、マイナス幅が6.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.4に対し、「CCI-LOBO」が▲33.2で、マイナス幅が11.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲32.4で、マイナス幅が7.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲2.3で、プラス幅が18.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で10ポイント以上良い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲21.8で、マイナス幅が16.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。

# 平成19年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 27.1	 38.4	 5.5	 34.6	 30.7
CCI LOBO	 32.8	 43.5	 26.3	 31.4	 30.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.4	 38.4	 11.1	 38.4	 15.3
CCI LOBO	 28.2	 34.3	 20.1	 31.2	 26.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.4	 38.4	 ±0.0	 30.7	 15.3
CCI LOBO	 33.2	 45.7	 34.1	 27.1	 31.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.0	 53.8	 50.0	 34.6	 23.0
CCI LOBO	 32.4	 43.3	 51.2	 17.6	 25.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 15.3	 11.1	 15.3	 23.0
CCI LOBO	 2.3	 16.6	 1.7	 3.0	 0.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.7	 23.0	 11.1	 7.6	 7.6
CCI LOBO	 21.8	 35.5	 21.3	 18.1	 17.1

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：平成19年7月19日～25日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

### 全国の業況

全指標が二カ月連続で悪化、業況DIは二年弱ぶりにマイナス三〇台へ

七月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(一九五)よりマイナス幅が三・三ポイント拡大して三二・八となり、一カ月連続でマイナス幅が拡大した。マイナス三〇台は二カ月ぶり。

【建設業】からは、「受注の減少により従業員の過剰感がある」「(一般工事)」「公共事業がほとんどなく業況は依然として低迷している。この状況がいつまで続くのか検討もつかない」「(一般工事)」「公共工事の減少により資金繰りに苦慮している」「(土木工事)」との声が寄せられている。

【製造業】からは、「原油や原材料価格の上昇が懸念材料である」「(金属加工機械製造)」「仕入コストが増加し、採算が合わない」「(食品製造)」「資金繰りが悪化している。染料、着色料、石油などの価格の高騰に翻弄されている」「(織物)」と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】からは、「受注が減少しており、先行きに不安を感じる」「(建築材料卸売)」「荷動

きが停滞している」「(鉱物金属材料卸売)」「業績が伸びない」「(食料・飲料卸売)」「魚価が輸入品を中心に高騰している。また、取扱量が減少している」「(農畜産水産物卸売)」との声が寄せられている。

【小売業】からは、「夏物衣料品、エアコン、冷蔵庫の動きが悪い」「(その他の小売)」「消費者の購買意欲は依然として低い。消費者の呼び戻しに苦慮している」「(商店街)」「来店客数の減少が続いている」「(商店街)」「夏物商戦で苦戦している」「(百貨店)」との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「売上は若干増加傾向にあるものの、鮮魚や青果を中心に仕入単価が上昇しているため、採算の回復には至っていない」「(食卓・レストラン)」「景気回復感はない。売上が減少し、業況は非常に厳しい」「(その他の一般飲食店)」との声も寄せられている。

### 七月のキーワード

#### 悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「業況は確実に悪化している。公共工事の減少により、同業者間の受注競争が激化し、信

じられないほどの低価格で落札せざるを得ない。このような状態が続けば、倒産がますます増えるだろう」「(金沢・建築工事)」「前年同月比で、売上が15%減少した。先行きにも好転の兆しは見られない」「(大府・工業用プラスチック製造)」との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスから「依然として景気回復感はない」「(帯広・各種商品卸売)」「来店客数、売上ともに減少した。先行きに期待が持てない」「(銚子・商店街)」「来店客数が減少している。業況は厳しい」「(境港・食卓・レストラン)」と厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

仕入コスト上昇  
各業種から原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事の減少や原材料価格の高止まり等により経営状態が悪化している」「(水沢・一般工事)」「安定した受注を確保しているが、原材料価格の高止まりによる仕入コストの増加により収益面では厳しい状況にある」「(新居浜・一般産業用機械製造)」との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「調味料の仕入単価が上昇している。販売価格を容易に引き上げることができず、採算の確保が難しい」「(十別・その他の小売)」、

「軽油価格の高騰が運送会社にとって深刻な問題となっている。業界を取り巻く環境は厳しい」「(静岡・運送業)」といったコメントが寄せられている。

天災・天候不順による影響  
各業種から、天災や天候不順による影響を訴える声が寄せられている。製造からは、「中越沖地震による自動車部品メーカーの被災に伴い、一部の受注に影響が出た」「(島田・自動車・附属製造)」「中越沖地震の影響により、過手倉最長の生産停止状態となった」「(稲沢・その他の輸送用機器製造)」との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「台風や長雨などの影響により、夏物衣料品などの売行きが悪い」「(柏・その他の小売)」「(台風・地震・天候不順などによる消費者の購買意欲が低下している」「(金沢・商店街)」「台風や長雨により、売上が落ち込んだ」「(鹿沼・島・その他の一般飲食店)」といったコメントが寄せられている。

### 全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	27.8	41.5	14.3	35.8	30.0	27.2
3月	26.0	42.8	14.5	37.7	25.4	23.7
4月	25.3	36.8	20.6	38.2	19.8	23.9
5月	25.1	40.9	21.3	27.8	22.2	20.9
6月	29.5	46.0	23.4	39.4	26.5	24.5
7月	32.8	43.5	26.3	42.6	31.4	30.8
見通し	24.0	41.3	20.7	26.7	18.8	21.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI